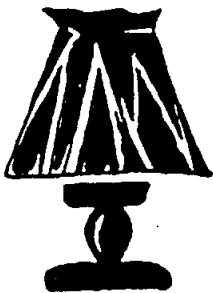


## 会員通信



自然は誰のもの?

私の住む広島町西の里には、野幌の森林公園と植生と同じくする植物が生育している林があります。田地の隅に位置しているその林を私は、「西の里原始林」と名づけその保護に生命を燃しています。一九七八年、始めてこの林に入った時の驚きは今でも忘れられません。

始めたのは、一九八七年、町の都市開発計画を知った時です。この野の花の宝庫に汚水処理の簡易施設や住宅が建たれると云うのです。私は驚きました。この野の花の宝庫を失う事は町の大切な財産を失う事だと思いました。何をする術もなく思ひ立ったのが、新聞への次のような投稿でした。

『——都市計画推進は自然を残す方法で——私の住んでいる札幌郊外の西の里団地にも、都市開発の波が押し寄せてきました。この町に住んで十五年になります。何よりもすばらしいことは、すぐ近くに野幌の森林公園と同じ植生の原始林があることです。そこは野の花の宝庫です。五〇数種もの花が春の雪溶けとともに顔を揃えはじめます。ア

さんからの手紙に「花の名を知ることで、子供たちは道端の花の一つ一つに関心を示すようになった」と書いてありました。切るのは一瞬ですが、一度切られたものはすぐに元どおりにはなりません。児童憲章にも「児童は良い環境の中で育てられる。また自然を愛するように……」とあります。どうぞ子供たちの為にこの自然を残す方法で都市計画を進めて下さい。と願うものです。』

幸い巧を奏し計画変更になり、汚水処理の簡易施設も住宅も建てられず、公園が作られることになりました。

これを機に今まで一人占め?として楽

カゲラなどの野鳥もたくさんいます。時にはアオサギが森林の上を飛んでいます。秋にはさまざまなキノコも採れます。こんな自然が今度の道路拡幅と宅地造成の都市計画で消え去るうどっています。将来的には、この道路を札幌市内のもみじ台団地とつなげる計画とも聞いています。私は大人の責任として子供たちにこの自然を残してあげなければいけないと 思います。私の二人の子供もサンショウウオやオタマジャクシを育て、クワガタ捕りに野をかけめぐつて少年時代を過ごしました。私はこの自然をみんなに伝え、大切に守って欲しいという願いで、近くの高校や保育園の子供たちに、原始林の花をアービュームにして見せました。七月、呆母

しんでいた野の花の宝庫を住民のみんなに知らせようと考へ、町の年一回の文化祭に「西の里原始林」の花の写真を展示して地域の人達に見てもらうようしました。五年前より参加してきましたが、一昨年からは、花の写真の他に「みんなで自然について考えよう」ゴルフ場開発反対のキャンペーングリーフを始めました。又、一人でも多くの人に「西の里原始林」の花の事を知つてもらいたく、バス停にも「西の里原始林」の花の写真の展示をしています。他にスライドの会も計画しました。バス停の写真も好評です。今迄一度も写真にいたずらされた事はありません。今年は又、町内の自治会の活動の一つかげらなど



63

に「西の里原始林」の散策会も計画され、私が案内で花の紹介をしました。

このように少しづつではあります、住民が自分達の住んでる地域の自然環境に关心をもってきた事は喜ばしい事です。しかし反面、この「西の里原始林」も年々荒廃してきているのは残念です。二年前始めて見つけたシロバナエゾエンゴサク、今年も楽しみに行つてみると、花の代りに掘られた穴がポツカリありました。なんともやりきれな

い思いでした。そこに咲いていると多くの人々が見、楽しませてくれるものを……。家に持ち帰って植えて一部の者しか見れません。否、下手すれば育たず枯死するかも知れません。そんな事を思うと悲しくなります。やはり二年前に見つけた立派なノビネチドリも盗掘されたのかも知れません。こうして豊かな「西の里原始林」は、乾燥化と盗掘により荒廃しつつあります。

今後は自治会でこの「西の里原始林」の保護運動をしたり、町の貴重な自然環境として保護保存されるよう運動をすすめていかなければならぬのでどうか……。その為にも実績として、花の写真を一生懸命撮っています。西の里文化祭には、町長も見にきます。近い将来「西の里原始林」の花と題して、花の写真集を出したいものと「西の里原始林と緑を守る会」の仲間と考えています。自然は誰のもの?そこに住む

すべての生物のもの。決して人間だけのものではありません。自然の中では人間もそこに住む一生物なのです。それを忘れてる人間があまりにも多すぎます。そう思いませんか。

(西の里原始林と緑を守る会「ニリンソウ」会員 広島町在住)